

様式(細則 6-2)

令和6年11月25日

浜田市議会議長 様

議員名 村武 まゆみ

研 修 受 講 報 告 書

下記のとおり研修を受講したので報告します。

記

1. 研修名

- ① 第2回全国オーガニック給食フォーラム in 常陸大宮(11/8)
- ② 子どもの権利条約フォーラム 2024in 東京(11/9, 10)

2. 受講の目的

- ① 全国でのオーガニック給食についての現状や先進地事例
- ② 子どもの権利条例の推進について現状や先進地事例

3. 期間 (移動日を含む)

令和6年11月7日(木) ～ 令和6年11月10日(日)

4. 経費 52,818 円

(経費内訳 受講料 2,000 円 、旅費宿泊費 50,818 円)

5. 研修のポイント・議員活動や市政への反映など

- ① 先進的に取り組む自治体の子ども達のためにという目的で有機農業やオーガニック給食に取り組む考え方が素晴らしいと感じた。そのこともあり移住者が増えている。
- ② 子どもの権利について、子ども達と一緒に取り組んでいるフォーラムが意味深い。浜田市の子どもの権利についての意識が向上できるようにしていきたい。

6. 研修内容

(詳細は別紙のとおり)



【研修内容】

11月8日

① 第2回オーガニック給食フォーラム in 常陸大宮

◎基調講演「給食が拓く子どもたちの未来」

鈴木 宣弘 氏(東京大学大学院特任教授)

国民の未来を守る鍵は学校給食にある。地元の安全安心な農産物を、学校給食を通じてしっかり提供する活動を強化する必要がある。地元で給食という出口(需要)を作り、高い価格で買取り、子どもたちの健康を守る。これが農家の大きなやりがいになり、みんなを幸せにする地域循環の仕組みとなる。

取組が進んでいる千葉県のいすみ市は「移住したい田舎」の首都圏1位である。一人一人がコーディネーターとなり、行政が仕組みづくりをリードし、協同組合がサポートすれば流れは変えられる。

◎基調講演「いのちの給食が世界を変える～私たち大人が手渡せるもの～」

堤 三果 氏(ジャーナリスト)

常陸大宮市は行政とJAが力強いタッグを組み進められている。特にJAの後押しは素晴らしい。

他、全国の先進事例なども提供された。



11月9日

②子どもの権利条約フォーラム 2024in 東京

◎いっしょに学ぼう!つくろう!広げよう!

～ひとりひとりの「声」が迷子にならないように～

子どもメンバー企画

「とどけ、わたしたちのリアル! ひろがれ、私たちのアクション!」

子ども達が登壇し、大人への思いを自分の言葉で語った。

- ・子どもの話を聞いていない大人が多い。まずは子どもの声を聞いて欲しい。
- ・決めつけないで欲しい。
- ・指示する前に話し合っ作って欲しい。
- ・安心できる場所づくり（子ども会議）

11月10日

子どもの権利条約フォーラム 2024in 東京
分科会「子どもの権利を尊重する関わり方」
おおたっ子条例を考える会

子ども達が安全安心して参加できる場の必要性

- ① 子どもの気持ちを受け止める
- ② 状況を伝える
- ③ 方法を考えさせる（アドバイス）
- ④ 自己決定

不登校の子ども達の権利：机に向かうだけ、学校に行くことだけが教育、学びではない。



【所感】

- ① 「子どもたちに最高の給食を届けたい」と挨拶した常陸大宮市の鈴木市長の考え方に感動した。有機農業は、農家、行政、JAなどの民間機関、住民がタッグを組んで進んでいく必要がある。浜田市が宣言している「オーガニックビレッジ宣言」のその先に何があるかを考えて進めて欲しい。
- ② 浜田市は子どもの権利についての意識が低い。浜田市の子供達がしあわせだと感じ、浜田を好きでいてもらうためには、まずは子ども達を大切にしていける必要がある。フォーラムの中で子ども達がしっかりと意見を言う姿を見て、浜田市の子供達も自分の考えや意見をしっかりとと言えるまちにしていきたいと感じた。まずは行政や議員が子どもの権利の必要性について理解し、市全体に子どもの権利について広げていく必要がある。